

1 目 指 す 学 校 像	<p>○生徒に「考える力」をつけて卒業させる学校</p> <p>○「モノづくり」と「コトづくり」、そして「人づくり」</p> <p>○都内唯一の「総合情報科」の工業高校として情報活用能力を育て実践的な職業教育を推進</p>		
2 中 期 的 目 標 と 方 策	<p>(1) 学校経営</p> <p>高いコンプライアンスを有する教職員集団を育成し、生徒・保護者の信頼を高める。学校経営上の課題について横断的に検討して、教育活動の改善や新規事業の提案などを推進する。ICT 機器等を活用した各分掌の議事録の共有、企画調整会議資料の回覧により情報を迅速・確実に共有し、各会を活性化する。</p>	<p>(2) 学習指導</p> <p>充実したわかる授業を展開し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上を図る。様々な施策により、全体的に学力の向上シフトを達成する。スタディサプリ等を活用した、基礎学力の向上を図る。</p>	<p>(3) 進路指導</p> <p>最後まであきらめさせない進路指導を貫く。キャリア教育を充実させ、生涯にわたる在り方・生き方について考えさせ、具体的なイメージを描かせる。資格取得や検定受験を意図的・計画的に進め、技能スタンダードの目標達成と生徒の自己肯定感を高める。</p>
3 今 年 度 の 取 組 目 標 と 方 策	<p>(1) 教育目標と方策</p> <p>各種会議を充実して情報共有を進め、有効な改善策立案と実施を行う。</p> <p>①常に企画調整会議での学校経営計画の理解浸透を図りながら各分掌・学年の意見聴取の双方向性を高め、学校運営の進捗を適正に管理し、適宜必要な方策を検討し実施する。</p> <p>②主幹会議を機能させ、教育課題に迅速に対応する。</p> <p>③「TOKYO P-TECH」による IT 人材育成のためのプログラムの具体的なプランの作成を行うため、プロジェクトチームを編成し、計画的・継続的な検討を進める。</p> <p>④経営企画室は、経営的視点に立った経営計画を策定し執行する。</p> <p>⑤働き方改革プランに基づき、ライフ・ワーク・バランスの改善に取り組む。</p>	<p>学力向上推進委員会を中心として、全教科で「充実したわかる授業」を展開し、生徒のやる気を引き出す。</p> <p>①学カスタンダード、技能スタンダードの実施を踏まえて、求める学力や技術・技能の到達目標を明確にし、AL を積極的に取り入れ、生徒の学力の確実な向上を図る。その際、STEAM 教育や職業スキル育成を意図的に授業に取り入れ、実施する。</p> <p>②授業評価・到達度評価など適切な評価を計画的に行い、生徒のつまずきを明らかにして、充実したわかる授業を展開する。</p> <p>③課題（宿題や予復習を含む）や小テストの実施等の工夫により、授業時間外の学習を促す。</p> <p>④スタディサプリや教科・系列が連携した指導体制に取り組むことで学力向上を図り、生徒の意欲を高める。</p> <p>⑤教科「人間と社会」を生活指導とも関連付けながら計画的に実施する。</p> <p>⑥さらなる ICT の活用を推進する。</p>	<p>「生徒の希望進路の実現」を果たす。</p> <p>①学年集会、面談週間、個人面談などを活用し、最後まであきらめない進路指導を継続する。</p> <p>②教員による企業訪問等によりニーズを把握し、進路講話、進路ガイダンスなどを充実させ、入学時から3年間の見通しをもった指導により、社会人として望ましい勤労観・職業観を育む。</p> <p>③企業講話、ものづくり講話などでの外部人材の活用やインターンシップの実施を発展・拡充し、生徒の職業に対する理解を深める機会をより充実して社会的・職業的自立意識を醸成し、将来の職業選択の一助とする。</p> <p>④対話力、協調性、分析的思考、セルフ・マネジメント、好奇心、動機づけ、リーダー性・責任感について、教科横断的に WPL を実施する。</p> <p>⑤町エグローバル IT エンジニア育成プログラムを着実に実行し、参加生徒のグローバル感覚の育成を図るとともに、その効果を全生徒が共有できるようにする。</p>
	<p>(2) 重点目標と方策</p> <p>①本校を理解した生徒の獲得 総合情報科の特色を生かした 4 系列のものづくり教室や 1 日体験入学を充実させるとともに、広報を徹底して多くの中学生に参加してもらい、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。 【数値目標】入学者選抜応募倍率を、推薦に基づく選抜 1.5 倍、学力検査に基づく選抜 1.2 倍の達成</p> <p>②PDCA マネジメントサイクルの実動化とライフ・ワーク・バランスの改善 教育系職員と行政系職員の関係を強化し、効率的で有効な学校運営を推進する。学習指導・部活動指導等の質の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進め、ライフ・ワーク・バランスを改善する。 【数値目標】教育系・行政系合わせて、電子決定方式の 80%以上達成 全員による夏休の 100%取得及び 5 日間の閉庁日の完全実施</p> <p>③「いつでも、どこでも、誰でも」指導ができる体制とぶれない指導 「始業チャイムとともに授業開始」、「身に付けさせる規律・規範」等、教職員の一致した厳しくも温かい指導を実践する。 【数値目標】対在籍者比で退学者 2%以下、転学者と退学者の合計で 4%以下</p>		

- 充実したわかる授業
- 自律的生活態度の育成
- 希望進路 100%の実現

(4) 学校生活と健康づくり	(5) 特別活動	(6) 広報活動と地域連携
<p>生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底し、体力向上を図る。積極的に社会に参画する人材の育成を図るため、教科と関係機関が連携した体験活動により、消費者教育・主権者教育を適切に実施する。</p>	<p>部活動の一層の活性化を図る。体育祭や文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を引き出しながら一層の充実を図る。生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、生徒が地域社会等で主体的に活躍する場を拡大する。東京都子供読書活動推進計画を踏まえて本校の読書活動を推進する。オリンピック・パラリンピック教育を、あらゆる場面・機会積極的に実施・展開する。</p>	<p>本校を志す生徒を増やすため、SNS等を積極的に活用し、本校の魅力を発信する。募集・広報活動の工夫・改善による「推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜」の応募倍率の向上を図る。教職員による中学校訪問、管理職による学習塾等への訪問による募集対策を実行する。地域連携を充実・開拓し、本校の魅力を伝える。</p>
<p>すべての教育活動で生活指導の有効性を共有し、生徒に「身に付けさせる規律・規範」を明示して、「いつでも」「どこでも」「誰でも」の指導を徹底する。</p> <p>①身だしなみや言葉遣いに関する指導や挨拶ができる指導を継続して実施する。 ②すべての学校生活の場面で、学校として一致した「ぶれない生活指導」を行う。 ③特別支援教育の視点をふまえて、個々の生徒に有効な指導方法で対応する。 ④全教職員が一致していじめを許さない姿勢を見せ、いじめ撲滅を果たす。 ⑤宿泊防災体験活動等の防災教育を充実させて、自助・共助の意識を育てる。 ⑥市選挙管理委員会等と連携した体験活動により主権者教育を計画的に進める。 ⑦生徒指導部・学校いじめ対策委員会・特別支援教育委員会を中心として、全教職員と保護者が連携し、生徒個々のわずかな変化にも早期に対応し、生徒に自らの人生を充実させる指導を推進する。</p>	<p>生徒が諸活動に主体的・積極的に取り組む中で、帰属意識や他を思いやる心を育て、体力・気力を養い、困難な状況にあっても「くじけぬ心」を育てる。</p> <p>①新入生に部活動参加を奨励し、2年生以降の部活動継続と加入を促し、加入率を向上させる。 ②自主的・自律的な学校づくりに向けて、生徒会の自立的活動を推進し活性化を図る。 ③部活動等の特別活動に限らず、体罰及び不適切な指導が行われることのないように、全教職員への周知及び全生徒への指導を徹底し、発生前期での対応が可能な体制づくりの強化を図る。 ④文化祭や体育祭などの全校で取り組む学校行事について、生徒会及び各行事の実行委員会等と担当教員とのコミュニケーションを活性化し、意見を集約・精選して学校全体の取り組みとしての一層の充実を図る。 ⑤読書活動を推進する読書会などの取組を計画・実施する。 ⑥オリンピック・パラリンピック教育を推進する。</p>	<p>ホームページやSNSを活用し、中学生やその保護者に本校の魅力を発信し募集対策を強化する。また、地域行事等への参加を推進する。</p> <p>①情報の即時発信のためにホームページを適時の更新・充実を行う。 ②中学校への出前授業、本校での体験学習を実施し、本校の特色ある教育内容を紹介する。 ③授業公開、学校見学会、学校説明会、個別相談会を適切な時期で実施する。 ④全教職員による学校説明会などを運営し、募集活動を充実する。 ⑤地域産業を中心とする企業との連携を推進する。 ⑥学校開放事業を推進するため近隣中学校や地域との連携により開かれた学校づくりの実施する。</p>
<p>④充実したわかる授業づくり 学カスタンダード、技能スタンダード等、各科・系列の学習到達目標達成のため、教科会・系列会議・総合情報科会を計画的に実施して教科マネジメントを機能させる。ICTを活用したわかる授業を推進する。 【数値目標】授業に関する科・系列研修会を年2回以上実施</p> <p>⑤生徒の希望進路の実現 最後まであきらめさせない励ましの指導を全校的に継続し、教員による企業訪問やインターンシップの充実を図る。 【数値目標】学校幹旋による進路決定率 100%</p> <p>⑥本校の強みをいかした地域連携の強化 町田市少年少女発明クラブやものづくり文化振興協会との連携により、生徒のものづくり意欲の向上を図る。ただON等の地域コミュニティと部活動との連携を図る。 【数値目標】各団体1回以上の催しに参加</p>		